车 中 中 •

御厨人窟の

… 高知県室戸市





断崖にぽっかりあいた2つの洞窟。右が神明窟、左が御厨人窟。

774(宝亀5)年、讃岐国多度郡屏風 が浦(現在の香川県善通寺市)の豪族・ 佐伯直田公の三男として真魚が生まれた。佐伯氏も母方の阿力氏も学者の系統だったため、多くの学問に囲まれて育った真魚は、15歳で都に上り、18歳で大学に入った。しかし、大学での勉学には満足できず、19歳を過ぎたころから修行の旅に出た。その途中、ある修行僧からすべての経文を暗記できるという「虚空蔵菩薩求聞持法」を授かり、故郷の四国でその修行に励んだ。そのとき巡ったのが、阿波(徳島)の大滝岳や伊予(愛媛)の石槌山、そして室戸岬などである。

室戸岬の東側、国道55号線に面した 断崖に2つの口があいている。ここが 真魚が室戸における修行の地として選 んだ洞窟だ。修行に使ったのが右の神 別窟。もう一方が寝泊まりをした、い わば生活の場だった御厨人窟である。

目の前には太平洋が広がる。波が激 しく岩礁に当たり、砕ける音が響いて いる。近くに住む女性は「台風のとき



室戸岬に打ち寄せる波は荒い。岩礁に当たって 散るときの音は地響きのようだ。





御厨人窟に入ってすぐのところでは修行僧が経 を唱えていた。 奥には五社神社と呼ばれる社が あり、 意外に広い。

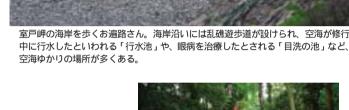
は波の飛沫が崖に当たり、岩がはがれ て落ちることもあるんですよ」と話す。

神明窟は奥行き10mほどだが、御厨 人窟は40mくらい行かないと壁に行き 着かない。しかもその壁面にはとても 細い隙間があり、もっと奥まで続いて いるようだ。「ここは戦中は防空壕でし た。食べ物を頭の上にのせて海を泳い で洞窟まで逃げてきたようです。その とき子供だった70歳のおじいさんは、 御厨人窟の奥の隙間から中に入ってい ったとき、戻れなくなると思うくらい 神明窟に向かうお遍路さん。洞窟の中からしみ 出た水が、国道まで筋をつくっていた。このあ と、最御崎寺を目指すと言って去って行った。

深く延びていたそうです」と先の女性 は言う。

壁の手前には入口の狭さからは想像できないほど広い場所がある。天井の高さも10m近い。岩からしみ出る水が壁を伝わり、滴が音をたてている。外からの波音が絶えず反響している。波の荒いときは、底から地響きのような音が鳴るという。

真魚は求聞持法を会得するため、虚 空蔵菩薩への祈りを唱え続けた。そん なある日、突然明星が真魚の口の中に



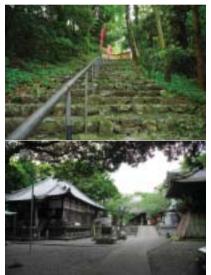


飛び込んできた。793年のことである。 その瞬間、真魚は求聞持法を会得。そのとき得た悟りを797年に『三教指帰』 として完成させた。

御厨人窟の中から外を振り返ると、 国道の向こうに空と海が見える。いまから1200年前は洞窟の入口あたりが波 打ち際だったという。当時は道もなく、 洞窟から見える外の風景は空と海だけだった。そしてその景色が、求聞持法 の会得後の真魚には、以前とまったく 違って輝いて見えたという。それまで 知空、教海などと法号を変えていた真 魚は、その光景から名を改めた。すなわち「空海」である。



現在は天照大神が祀られている神明窟。この中からは空と海は目にできない。



四国八十八ヶ所第24番礼所の最御崎寺へ至る石段上)と寺の境内(下)。下の写真の奥に見えるのが本堂。徳島から高知に入って最初の礼所である。

空海が四国で修行を続けた険しい山は、そのまま「四国八十八ヶ所」となった。御厨人窟にもお遍路さんがひっきりなしに立ち寄っていく。このあとに目指すのは第24番礼所の最御崎寺だ。お遍路さんの砂利を踏む音がなくなると、耳に入るのはまた波音だけになった。

よく聞こえる時期 1年中聞くことができる。とくに波の高い ときはよく聞こえる。

同い合わせ光 室戸市観光深層水課 電話0887(22)5134

参考文献:環境省大気保全局大気生活環境室発行 『残したい日本の音風景100選』パンフレット